

はな お



第143号
 北九州市立花尾中学校PTA
 責任者
 野崎 雅弘
 編集責任者
 広報委員会
 印刷所
 よしみ工産株式会社

3学年

学年主任 北野 幸子

行事が終わるごとに最上学年だと感心する場面にたくさん出会いました。特に心を揺さぶられたことは、みなさんの感動する力です。努力や苦労なくして得られる感動などあるはずはありません。うまくいかず悔んだり、あたたかい言葉に励まされたり、がんばれたことにうれしくて涙がでたりするのは、一生懸命取り組んだからこそ起きる感情だと思います。

困難に立ち向かうみなさんはとても素敵です。これからも、その熱い心を忘れずに!!

1学年

学年主任 古賀 和広

1年生は、とても素直で頑張り屋の生徒がたくさんいます。

体育大会でも一生懸命な姿を随所に見せてくれました。花尾中の伝統である「先輩の姿を見て、成長していく。」正にそのとおりに実践しているようです。

成長を願って学活や学年集会でいろいろな話をしますが、しっかりと集中して聞いてくれます。向上心が感じられます。それぞれの生徒の自立を支え、将来への展望が開けるよう、家庭と連携しつつ、頑張っていきます。

子どもたちを感じた先生からのメッセージ

~成長したこと!がんばったこと!願い事!伝えたい事~

進路

進路指導主事 遠藤 秀視

「入りたい」高校を探すよりは、「通いたい」高校を探すことが大切だと思います。生まれて初めて(のことが多いと思います)自分で選べる学校を選ぶのですが、「選んだら3年間通う」事になります。学校の雰囲気はもちろん、通学にかかる時間、学習のスピード、そして高校を卒業した後の進路が自分の方向性と合っているかどうかをしっかりと考えることが大切だと思います。

進学をするということは、3年後にもう一度進路選択をするということです。

2学年

学年主任 西田 泉

それぞれが「今自分が関わっている人」を大切にすること。目の前の人とは友達です。毎日学校と一緒に生活をしたり、部活動と一緒に頑張っている友達。中学生にとって何よりも大切なものは友達ですから、互いに尊重し合う関係でいてください。次に関わる人は家族です。一生のうち最も多感であり、親に反発するのがまさにこの時期です。ですが、逆に自分の親や兄弟に感謝する気持ちも徐々に芽生えてくるもの。そんな人であって欲しいです。

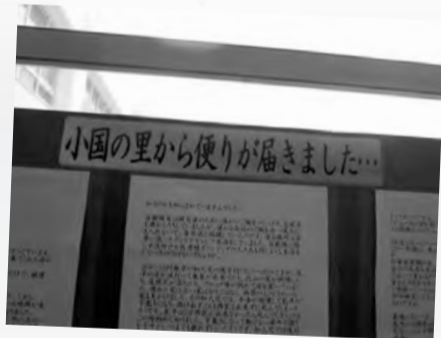
ひまわりプロジェクト

今年4月、熊本地震は大きな被害となり、いまだに復興できていない状況です。今年の夏、北九州PTA協議会主催「届けよう200校の絆プロジェクト「元気なひまわりを被災地の学校へ」」に本校も参加しました。各学年の代表者がタネ植えを大切に育てたひまわりを、益城町の小中学校に届けることができました。

毎年2年生が農業体験でお世話になる熊本県小国町へも、校長先生がひまわりを届けてくれました。

3年生は、昨年農村宿泊体験でお世話になった小国の方へ、被災見舞いの手紙を送りました。小国のみなさんより感謝の手紙が届きました。

2F職員室前(3学年教室前)廊下に掲示



1学期の終業式に、各クラス代表の生徒が、ひまわりの種植えをしている様子です。



土を触ったことのない子どもたち。土のやわらかさに、驚きの声!!



夏休みの間、生徒・先生方のお世話によりすくすくと育ったひまわりが、熊本へ元気を届けました!



大きくなるんだよ!!優しく声掛けをしながらタネ植えをする子どもたちの姿がありました。

<取材感想>

心のこもった子どもたちの手紙に返事が届き、気持ちが伝わったことに喜びを感じました。

<取材感想>

ひまわりの芽とともに、優しいところがいつまでも育ちますように

